

スチア

「…、ご主人様。お話って…一体何なの？」

リニア

「朝の行為と…お風呂場でのこと、ですか？」

スチア

「あれは、ご主人様への性のご奉仕なの。奴隸として当たり前なの」

スチア

「…何度も言ったの。スチア達はえっちでしか…報いることができないの」

スチア

「だから、拒まないで欲しいの…」

●沈黙。数秒の間

リニア

「…？ 提案…ですか？」

リニア

「えっちは…否定せずに…」

リニア

「奴隸じゃなくて…家族としての…えっち…ですか？」

スチア

「……」

スチア

「ご主人様がそう言うなら、わかった…なの。それに従うの」

スチア

「でも、どうすればいいかわからないの…」

リニア

「…うん、これまで知らなかったこと…だもんね」

リニア

「…あの、ご主人様」

リニア

「私たちに…教えてくれませんか？」

リニア

「その…、家族の…えっち」

★右 ▲耳元

スチア

「んっ…」

★左 ▲耳元

リニア

「はうっ…」

スチア

「急に抱きしめられると、びっくりするの…」

リニア

「…ああ、ご主人様の身体…おっきい、です」

スチア

「それに…あったかいの」

スチア

「あっ、んっちゅ…、ちゅぷ…ちゅ、ちゅぱっ…んっ…はあ…、れろっ、んっ…ちゅ」

スチア

「っばあ…、これがキス…なの？ 初めてしたの…」

リニア

「スチア、どうだった？」

スチア

「よくわかんないの…わかんないけど、ドキドキするの。…リニアもしてみるの」

リニア

「え、私も…？ ひゃっ」

リニア

「んっちゅ…んっ、んんゝ、ちゅ、ちゅ…はうっ…ちゅぶ…ちゅ…んっ、ちゅ」

リニア

「ぱはあ…。ほ、ほんとだ…ドキドキ、する」

スチア

「これが、家族のえっちな…？」

リニア

「…えっちは、お互いに気持ちよくなるもの…なんですよね？」

リニア

「そう…ですか…」

リニア

「じゃあ…今の私、おかしくない…ですよね」

スチア

「っ、次は…どうすればいいの？ 教えて欲しいのっ」

スチア

「…お互いの性器を…触る、なの？」

スチア

「ふぁうっ、んっ、んふう…はぁーっ…、はぁーっ…、はーっ…んっ」

リニア

「わ、わたしの…中…ごしゅじん、さまのゆびい…おなかの、なか…ぞわぞわ…して…ます」

リニア

「でも…ちょっと、こわいから…もつとくっついてても、いいですか？」

スチア

「スチアも…スチアも、ご主人さまにくっつくのお…」

スチア

「んっ…あっ、あぁうう、ふうっ、ううんっ…あっ、あぁっ、あ…、あうっ、ううっ、んふう…」

リニア

「はうっ…んっ、んはぁ…うっ…、ううっ、ふうんっ…んっ、んっ、んんっ…、ふうん…」

スチア

「ひう、あっ、あふうっ…」

リニア

「ひいうう…」

スチア

「ごしゅじんさまの指…」

リニア

「きもちい…ですう」

リニア

「これが、家族のえっち…なん、ですね…」

スチア

「すごいのお…自分でっ、触るのとお…全然、違うのお…」

スチア

「ひうつ、ううつ、あんっ…うう、うあう…ああ、ヤバ、ヤバいのお…限界なおっ」

リニア

「っ…、ううう、ううんっ…ひいう…ひゃあう…んっ、んふう…」

●手マン停止

■脱力した感じで

スチア

「はーっ…、はーっ…、はーっ…、はーっ…」

リニア

「はーっ…、はーっ…、はーっ…、はーっ…」

スチア

「これ、おかしくなるのお…」

リニア

「あれ…でも、これじゃあ…ご主人様が、気持ちよくなっていない、気が…」

スチア

「そ、そうなの…スチア達も、ご奉仕…するの」

スチア

「…？　一緒に気持ちよくなることができるなの？」

スチア

「え、それって…本気…なの？　いいなの？」

リニア

「…あの、ご主人様も…知っていますよね？」

リニア

「人は獣人の中に挿入したがりません…獣人と交わると、自らも獣に堕ちるからと…」

スチア

「だから一方的に舐めさせたり、触らせたりさせるだけなの…それが、スチア達が奴隷として扱われる理由なの」

スチア

「気にしない…なの？」

スチア

「……！」

リニア

「……！」

スチア

「嫌じゃないの…、ご主人様はスチア達にやさしくしてくれるから…むしろ嬉しいの」

リニア

「…っ、家族として…ってそこまで…してくれるんですね。嬉しい…です」

リニア

「私…ご主人様とえっち、したいです」

スチア

「スチアも…なのっ」

スチア

「…挿れて…なの」

リニア

「…挿れてください」

●挿入音

スチア

「あっ…んっ、くああああっ…スチアの、中に…！　きたのおっ！」

スチア

「んっ…！ んふうう、あつ、はぁうつゝ！ んっ、んんんゝっ！」

リニア

「ああ…ほんとだ…。スチアの中に…ご主人様のおちんちん…入っちゃってます…」

スチア

「お、奥まで…かき分けて…入って…くるのお」

リニア

「私達は体が小さいので、性器も小さいかも…しれません…入る、かな？」

スチア

「あ、はーっ…、はーっ…、ふーっ…は、はいった…なの？」

リニア

「うん。ちゃんと入ってるよ、スチア」

スチア

「よ、よかった…なの。初めてだったから…ちゃんとできるか不安だったの…」

リニア

「あの…私、ご主人様のお耳…舐めてもいいですか？」

リニア

「リニアの気持ちよさそうな顔を見ていたら、その…興奮してしまいました…」

リニア

「はい…精一杯、お耳を気持ちよくしますね」

スチア

「ご主人様…もう、動いて…いいの。そろそろ慣れてきたの」

スチア

「むしろ、動いて欲しいの…体が気持ちよくなりたいって、うずいてるの…」

● ゆっくりピストン

スチア

「あっ、あっ…んっ、んん〜！ んあっ、あっ、あ…あうっ、うっ…！ ううっ、ううんっ…！」

スチア

「はうっ、うくっ、うううっ〜！ おちんちん、やばいのお…！ かきまわして、くるのお！」

スチア

「ああう、ううっ、うっ、ううんっ…あ、あっ、あっ、あっ…んっ、うふう〜！ う、ううううんっ…あああっ、あ〜っ」

リニア

「すごい…こうやって繋がるん、ですね…」

リニア

「あ…見とれてました…私も、舐めますね…」

スチア

「あっ、あっ、あっ…あっ、あんっ、んんっ、うう…んはあ、ああっ、あああっ、ああんっ、あああ〜、うっ、ううっ、ううんっ…、はーっ、はあーっ…、あっ、んっ、はーっ…ふっ、ううっ、ううんっ、んはあ…あっ、あうっ、ううんっ」

リニア

「れろっ…ちゅ、れろ…れえーろ…んっ、ちゅ…ちゅばっ…れろ、れろ…れろ…、れろお…ちゅ、ちゅぶ、ちゅば…っはあ…、はああむっ…ちゅ、れろ、れろ…れえろ…んっ、ちゅ」

スチア

「んっ、ううっ、うっ、ううううゝ、あっ、あっ、あっ、あっ…ああああっ、ああうっ、あう、あうっ、うん、うんうんうんっ…ううんっ、あっ、んはぁーっ。はーっ…はーっ…。はーっ…ひうっ、うっ、うっ、うんっ、ううう…、あっ、あうっ、あうっ、あうっ、あう…ううっ…あう、うう…うん…、んふう…、ふーっ…、ふーっ…」

リニア

「…んっ…どう、ですか？ スチアの…中。狭い…ですか？」

リニア

「その…音…すごいですね。ぱん…っ、ぱん…って、体を打ち付けている音…」

リニア

「本当に、よかったんですか？ 獣人と交わって…」

リニア

「…誰かに、ご主人様が…その、白い目で…見られるかもしれません」

リニア

「……。そう、ですか…」

リニア

「はい…家族です」

スチア

「あっ、あっ、あっ…ああっ、あうっ、あう、あう、あっ、んっ…あうっ、あう、あうう…ううんっ、んふう…っはぁ、はっ、はっ、はーっ…あっ、んっ、んんゝっ、んぁーっ…」

リニア

「んちゅ、ちゅ…れろれろ、れろれろれろ…じゅ、じゅる…んっ、んはぁ…れろ、れえーろ」

スチア

「んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ…はうっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うんっ、うんうんうんうんっ…うんうんうんうんっ…」

リニア

「あ…出そう…なんですか？」

リニア

「その…精子」

リニア

「どこに…出しますか？」

スチア

「中がいいのっ、中に出してほしいのっ…一緒にイキたいのっ」

スチア

「いんっ、いんっ、いんっ、いんっ…いんっ、いんっ、いんっ、いんっ…」

いんつ、いんつ、いんつ…いんつ、いんつ、いんつ…いいいいつ
 つはああ…はーつ、はーつ…んはあ…はーつ、はうつ、うううつ、うううつ〜!」

リニア

「中に、出しますか？ 人と獣人には子供ができませんから……大丈夫ですよ？」

リニア

「スチアの中に…精子、流し込んでください…」

リニア

「びゅーって…」

スチア

「あうつ、あうつ、あうつ、あうつ、あうつ、あうつ、あうつ、あうつ」

スチア

「あああううううううう~~~~~!」

● 射精

スチア

「あつ、ああつ、あ…、ああ…イっちゃったの…」

スチア

「はーっ…、はーっ…、はーっ…。はーっ…はーっ、はーっ…」

リニア

「中出し…お疲れ様でした。いっぱい…出しましたね…」

スチア

「んっ……んはぁ……、
抜けちゃったの……」

スチア

「あ……中から……せーし、溢れてくるの……」

スチア

「ご主人様…ありがとうなの…とっても、気持ちよかったの…」

リニア

「…え、えと…じゃあ、私の番ですよ？ 大丈夫ですか？」

リニア

「その…お疲れでは、ないですか？」

リニア

「…はい。じゃあ…お願いします」

●挿入音

リニア

「っ…、~~~~っ！」

リニア

「っはぁーっ、はーっ、はーっ…だ、だいじょうぶ…です」

リニア

「なかに、おちんちん…入ってくるの、こんな感じ…なんですね」

リニア

「…動いても…いい、ですよ」

リニア

「さっきから…ご主人様のお耳、舐めていたので…その…十分、濡れてます…なので大丈夫です…」

リニア

「いっぱい…突いてください」

リニア

「うううんっ…、っ…はうつ、うう…っはあ…っはう…うつ、ううん…っ、っはあ…あつ、あつ、あつ…はあうつ…、はうつ、あうつ、うつ、うつ…ううつ…ひうつ、ううん…」

リニア

「…ご主人様のおちんちん、おっきい…です。私の中全部…満たされていますっ」

スチア

「ご主人様…スチアもお耳舐めるの…あうむっ…」

スチア

「れろっ…ちゅ、ちゅば…じゅる…ちゅ、ちゅ、ちゅぶ…ちゅ、んはあ…んちゅ、ちゅ、れろ…れろれろ…れえろお…」

リニア

「っん、っん、っん、っん…っはあ…、はうつ、うつ…うつ、ううんっ、んはあ…あうつ、ううつ…んふっ」

スチア

「リニアのなか、きもちいいの？」

スチア

「じゃあ…スチアとどっちがいいなの？」

スチア

「だって…ご主人様の気持ちよさそうな顔見ると、ちょっと嫉妬しちゃうの…ごめんなの」

リニア

「いつ、いつ、いつ…いいうつ…ううつ、うつ…んはあ、はっ、はっ、はっ、はっ…んっ、んん…っ、はあーっ…、はあーっ…、はうつ、うつ、ううつ、っはあ…あつ、はーっ、んはあう…」

スチア

「ちゅ、ちゅぶっ…じゅ、じゅる…れろ、れえーろ…じゅる、じゅばっ…っじゅるる…じゅ、じゅばっ…れろ、れろれろれろ…はううむっ…くちゅ…」

リニア

「っはあ…、っはあ…、はーっ…んっ、ううん…んっ、うんっ、んっんっんっ…んはあ…はう、あう、あう…あう…、うつ、んんっ…あう、あう…うううつ…」

スチア

「んっ…じゅる、じゅるる…じゅばっ、れろ、れろじゅ…じゅぶ、じゅぶっ…じゅば、じゅばっ…れろれろれろ…れろれろれろ…れええろ…じゅずずっ…じゅ、じゅるる、んっ…っぱあ…あむっ…ちゅ、ちゅるる…れろじゅる…じゅばっ…じゅる、じゅぶっ…じゅずずっ」

リニア

「んっ…はうっ、あう、あう…あう…あう、あうあうあう…うっ、うっ、うっ…あうっ、ううっ…、ううんっ…っぱあ…、はーっ…、はーっ…、はーっ…、はーっ…、んっ、んはあう、うっ…ううっ、ううう…いんっ、いんっ、いんっ…いいん…んはあ…」

スチア

「ご主人様…またイキそう、なの…?」

スチア

「いいの…リニアの中にいっぱい射精するの…」

リニア

「っはう…あう、あうっ…んっ、んっ、んっ…ううんっ…んんん、っぱあ…、ああうっ」

リニア

「はいっ…出してくださいっ…ご主人様の精子…私の中にっ」

リニア

「あうっ…んっ、いいん、いいん、いいん、いいん、いいん、いいん、いいん、いいん…」

リニア

「いんいんいんいん、いんいんいんいん…」

リニア

「いいいいいっ~~~~~!!!!」

●射精

リニア

「っ…、あああああっ…あ、あ…ううう…」

スチア

「お射精お疲れ様なの…ご主人様」

● 抜ける音

リニア

「ひっうっ…、うっ…」

スチア

「はぁぁ…すごいのお…二回目なのに、セーしがりニアの中から溢れてくるの…」

リニア

「あり、ありがとうございました…、えっち…すごく気持ちよかったです…」

スチア

「そうなの…お互いにするのが、こんなにも気持ちいいものだと思わなかったの…」

リニア

「これが…家族のえっち、なんですね…」

スチア

「でも…いっぱい疲れちゃったの…」

リニア

「…ご主人様も、二回も…動いてもらって…お疲れですよね」

リニア

「今日は…ゆっくりおやすみになれてください」

スチア

「そうなの…一緒におやすみするなの」

リニア

「灯り…消しますね」

スチア

「おやすみなさい…なの」

リニア

「おやすみなさい…です」